

スポーツ傷害の予防と治療における地域連携 研究者、講座： 渡邊耕太、山下敏彦、整形外科教室

スポーツ活動は発育期から中高年まで盛んに行なわれている。しかし不適切な運動方法による運動器障害の発生が危惧されている。本学整形外科教室ではこれらスポーツ傷害を専門的に治療するため、スポーツ外来を開設している。これを発展させ、市内や道内にスポーツ医学の拠点病院を設定し、特に地域の中・高生のスポーツ選手を対象に、スポーツ傷害の予防や治療の向上を目指す。またJOCと連携して、スケートやスキーなどのウインタースポーツ選手の医学的ケア・サポートを行なう。

具体的な参加施設については、当初は下記のように考えている。これらの病院では現在スポーツ専門外来を運営もしくは開設予定である。

このシステムでは基本的には大学が中心的役割を担うが、各病院間の連携も確立していく。

札幌市や道内主要都市にある病院間の連携により、患者の紹介、治療の引継ぎ・継続、合宿・試合時のサポート、医療スタッフ勉強会、地域でのスポーツ傷害予防啓蒙活動などを行なっていく。

